

validateAPI

MaachangComet には、Validate 処理系の API が存在します。

Validate 処理は、大体の場合、POST リクエストからの Controller 処理で行うのが通常です。

そして、大体の場合は、下記のような流れで、Validate 処理を実装します。

< 例 >

```
// Validate 処理
```

```
validate_string(STR_KANA,0,100, " data1 ", " データ 1 は、カナで入力してください " ) ;
```

```
validate_email( " email ", " email のフォーマットは不正です " ) ;
```

```
// Validate エラーの場合は、inputForm に戻る .
```

```
validate_forward( " inputForm " ) ;
```

```
// Validate エラーで無い場合は、内容を保存 .
```

```
var bean = TestData.bean() ;
```

```
bean.data1 = params[ ' data1 ' ] ;
```

```
bean.email = params[ ' email ' ] ;
```

```
TestData.save( bean ) ;
```

こんな感じで、Validate,Validate エラーの場合は、Forward,正常な場合は、データ保存・・・のような感じで処理を行います。

また、これらの API の内容を次ページより、説明していきます。

Validate **が検知されているかチェック**

```
function is_validate()
```

戻り値 : [true]の場合、Validate が検知されています。

Validate **が検知されている場合の Forward 処理**

```
function validate_forward(url)
```

url : Validate が検知されている場合の Forward 先を設定します。

説明 : このメソッドは、Validate 検知処理の後に呼び出します。

文字列を Validate.

```
function validate_string(type,min,max,name,message)
```

type : チェック対象のタイプを設定します。これらの内容は or(|) で複数指定可能です。

STR_NUMBER を指定した場合、数値のみの条件であるかチェックします。

STR_ALPHABET を指定した場合、アルファベットのみの条件であるかチェックします。

STR_ASCII を指定した場合、ASCII のみの条件であるかチェックします。

STR_KANA を指定した場合、カナのみの条件であるかチェックします。

STR_HIRA を指定した場合、ひらがなのみの条件であるかチェックします。

min : 文字列最小値を設定します。

max : 文字列最大値を設定します。

name : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します。

message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します。

日付フォーマットで Validate.

```
function validate_date(format,name,message)
```

format : チェック対象の日付フォーマットを設定します。

name : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します。

message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します。

正規表現で Validate.

```
function validate_match(match,name,message)
match   : チェック対象の正規表現(perl5Util)を設定します.
name    : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.
message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.
```

郵便番号で Validate.

```
function validate_zip(name,message)
name    : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.
message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.
```

ISBN で Validate.

```
function validate_isbn(name,message)
name    : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.
message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.
```

IP アドレスで Validate.

```
function validate_ip(name,message)
name    : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.
message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.
```

URL で Validate.

```
function validate_url(name,message)
name    : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.
message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.
```

EMAIL でValidate.

```
function validate_email(name,message)
```

name : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.

message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.

バイナリでValidate.

```
function validate_binary(size,name,message)
```

size : バイナリ最大サイズを設定します.

name : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.

message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.

内容存在確認でValidate.

```
function validate_use(name,message)
```

name : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.

message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.

パラメータ個数最小値でValidate.

```
function validate_min(size,name,message)
```

size : パラメータ個数最小値を設定します.

name : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.

message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.

説明 : ここで言うパラメータ個数は、同一名のパラメータ個数を指します。

パラメータ個数最大値でValidate.

```
function validate_max(size,name,message)
```

size : パラメータ個数最大値を設定します.

name : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.

message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.

説明 : ここで言うパラメータ個数は、同一名のパラメータ個数を指します。

指定条件群が含まれているかValidate.

function valdate_info(target,name,message)

target : 比較対照のチェック内容群を設定.

name : チェック対象の HTTP パラメータ名を設定します.

message: Validate エラー時の表示メッセージを設定します.

説明 : この Validate の使い方は、たとえば、チェックボックスで、A と C が指定されていないとエラーにするとかを実装する場合など。